# 令　和　４　年　度　　学　校　総　合　評　価

## ６　今年度の重点目標に対する総合評価

生徒一人一人の実態を把握し、「わかる授業」の充実、成功体験を積み重ね「自己肯定感」を育む活動の充実は、本校の学校計画の根幹である。それを踏まえて、教務部・福祉教養科による学習活動、生徒指導・保健厚生部による学校生活の充実、進路指導部による指導（支援）体制の構築の５点を重点課題に絞り、評価を受けた。

重点課題①：生徒の実態把握による適切な受講登録とわかる授業の確立

重点課題②：社会福祉に対する興味・関心の向上と基本的知識・技能の習得、及び思いやりの心の育成

重点課題③：基本的生活習慣の確立

重点課題④：睡眠を中心とした生活習慣の見直しと改善

重点課題⑤：生徒の実態や目標に即した進路指導（支援）体制の構築

重点課題の評価は、②の２項目がＡ（達成）、Ｂ（ほぼ達成）、③の２項目がＢ（ほぼ達成）、Ｃ（現状維持）、他の①、④、⑤がＣ（現状維持）であった。評価に差があったが取り組んだことに対して、評価をいただくとともに、いくつかの課題も指摘され指導・助言をいただいた。

①　互見授業を充実させるなど、学校全体で授業改善に取り組み単位修得につながる支援を考えてほしい。

②　来年度は福祉施設等においてコロナ禍における活動制限が続く状況でも、オンライン会議等を活用するなどの工夫をすることで、施設利用者との交流活動は実施してほしい。

③　ネットルール見直しに関連して、情報リテラシーを高める指導を考えてほしい。

④　睡眠の改善については本人だけでは難しいので、次年度は保護者の協力を得ながら進めてほしい。

⑤　就職試験の受験先を決める際は、就業体験への参加や複数の応募前職場見学をすることにより、実際に自分の目で見て体感して判断するよう指導してほしい。

## ７　次年度へ向けての課題と方策

学校評議員からは、学校の取組について今後の継続に向けた観点からの評価を受けた。今後ＩＣＴ機器活用法の改善点と問題点を検証し、これまで以上にわかる授業へ繋げる校内研修を進める。福祉教養科の行事の拡充と生徒の主体的な取組の推進、外部施設との継続的な交流を実施する。学校生活全般において、なお一層良好な人間関係を築いていく機会を設定するなど、新たな工夫に取り組んでいく。